

論文審査の結果の要旨

氏名：木 附 隼

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：不眠関連症状の季節変動に影響する因子の検討

審査委員：（主 査） 教授 兼 板 佳 孝

（副 査） 教授 岩 崎 賢 一 教授 権 寧 博

教授 鈴 木 孝 浩

不眠が日中の機能障害を引き起こすことや、うつ病などの精神疾患の発症・再発の危険因子となることが知られている。我が国は明確な四季を有するが、不眠の季節変動に関する疫学知見の集積は乏しい状況にある。そこで、本研究では、日本人の一般住民を対象に不眠関連症状が季節によってどのように変化するか、また、季節変動と性別、居住地域、年齢との関わり方について既存の疫学調査データを解析することによって検証した。用いられたデータベースの情報は、同一個人に対して実施された4回の自記式質問調査で収集されたものである。本研究においては、匿名化された15歳から89歳の1,568人分のデータが統計解析に供された。具体的には、性別、居住地域、年齢を調整因子とした混合効果順序ロジスティックモデルを用いて、不眠関連症状の季節変動、および、それらに対する性別、居住地域、年齢の影響を検討した。

その結果、入眠困難、中途・早朝覚醒、日中の眠気において、季節変動が認められ、いずれも秋や冬に比べて春や夏にこれらの症状を有する頻度が高いことが示された。また、中途・早朝覚醒については季節変動と年齢との間に交互作用が認められ、季節変動は年齢で異なることが示唆された。申請者は、これらの研究結果について、温度や湿度などの気候要因に加えて、季節による社会要因の違いが関与している可能性を論じた。

本研究の優れた点は、調査時期を春、夏、秋、冬と季節性を考慮して複数回設定したことに加えて、不眠の季節変動との関係性における性別、居住地域、年齢の影響を検討したことである。本研究結果については、その新規性は高く、精神神経科領域の日常臨床診療に大きく寄与するものである。また、本研究結果は、睡眠を標的とした公衆衛生学的施策を構築するうえで有益な情報を提供するものである。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

令和 4年 2月 24日